

東京理科大学の現状と課題

平成20年度版

学校法人 東京理科大学

『東京理科大学の現状と課題』（平成 20 年度版）の刊行にあたって

明治 14 年、本学の前身である東京物理学講習所は「理学の普及をもって国運発展の基礎となす」との建学の精神のもと、若き 21 名の理学士らにより設立され、以来、科学技術立国日本を支える多くの有為な人材を輩出してきた。物理学、数学の 2 学科からなる物理学講習所は 1 期生 20 名の小所帯であったが、科学技術の発展に伴う学問分野の多様化に対応し、現在では 8 学部 33 学科、8 研究科 27 専攻に約 20,000 名の学生が在籍するまでとなっている。また、21 世紀の科学技術は、生命、エネルギー、環境、情報、人間に関する分野の急速な発展が期待・予測されており、このような時代の変化に対応すべく、平成 21 年度には既存研究科を改組し、総合化学研究科、科学教育研究科の設置を予定するなど、引き続き大学改革を進めていきたいと考えている。

本書は、昭和 43 年の刊行以来、平成 20 年度版で 20 版を迎えた。発刊当初の、昭和 40 年代は大学の管理運営のあり方が社会的問題となっており、現状の分析と問題点の検討を行い、財政上の見通しを立てながら将来課題の実現に努め、理事会の方針について全教職員と学生に対して理解を求めることを目的としていた。しかし、昨今は法令に基づく認証評価制度や、社会への情報公開等も踏まえ、本学の歴史を記録した資料集としての役割も担っている。本学の理解を深める上では、この『東京理科大学の現状と課題』に勝るものはないと確信しており、今後も本書の編纂は継承・発展していきたいと思っている。ぜひ手にとり、ご一読いただくことを強く願う次第である。

18 歳人口の減少に伴う大学全入時代の到来に代表されるように、大学を取り巻く環境は極めて厳しく、将来的にも好転することは予想し難い。こうした厳しい状況の中で、本学が特色ある大学として学生から「選ばれる大学」となるためには、たゆまざる改革を進めるとともに、自己点検・評価及び第三者評価の結果を踏まえ、取り組むべき課題を明確にし、絶えず改善に努めていかなければならない。そのために、本書を本学の改善の材料として有効に活用していきたいと考えている。

あらためて言うまでもなく、大学の使命は、教育・研究の成果を社会に還元し、社会が要請する有為な人材を輩出することにある。本学の 128 年を数える「伝統」と東京理科大学という「ブランド」を携え、これに甘んじることなく、社会に開かれた大学であるとともに、教育・研究を通して良心をもった研究者・技術者・教育者の育成に向け、引き続き、全教職員の協力のもと努力をしていく次第である。

最後に、本書の編集にあられた理大白書編纂委員会委員はじめ関係各位のご尽力に深く感謝するものである。

平成 21 年 3 月

学校法人 東京理科大学

理事長 塚 本 桓 世